穂積宏尚先生（医学科２３期）アンケートご回答

質問１　受賞の喜びをお聞かせください。

非常にご多忙のところ、審査して頂いた選考委員の先生方におかれましては深く感謝申し上げます。このような歴史ある素晴らしい賞を受賞できましたことを大変光栄に思います。本研究は、浜松医科大学内科学第二講座の須田隆文教授をはじめ、同僚や先輩方、公立陶生病院の片岡健介先生・近藤康博先生、株式会社医学生物学研究所の皆さま方にも多大なるご協力を頂いており、厚く御礼申し上げます。

質問２　いつ頃からどのようなきっかけで今回のテーマに取り組まれたのでしょうか。

特発性肺線維症は代表的な間質性肺疾患であり、非常に予後不良であるため、早期診断や予後予測に有用なバイオマーカーの開発が求められております。もしそのようなバイオマーカーを発見できれば日常診療において貢献できるのではないかという思いで2017年頃から産学連携の共同研究を始めました。

質問３　今回の研究でご苦労された点はなんでしょうか。

無数のバイオマーカー候補の中からしぼりこむ過程が大変でした。当初は有望だと思われていても疾患の重症度等で補正していくと統計学的に有意でなくなってしまったり、有意であっても複数コホートでバリデーションできなかったりしました。

質問４　近況をお聞かせください。

現在は母校である浜松医科大学内科学第二講座（呼吸器内科）に在籍し、臨床・研究・教育に携わっています。主に間質性肺疾患に関連した前向き試験やバイオマーカー探索研究、基礎研究を継続しています。

質問５　今後の課題についてお聞かせください。

本研究で得られた知見をもとに、肺線維症の病態解明や治療開発を目指す基礎研究に着手しました。道のりは長いですが、一歩一歩コツコツと進んで行きたいと思います。

質問６　今後の同窓会に望むことをお聞かせください。

本賞の受賞は大変励みになりました。ぜひとも今後も継続をお願いできれば幸いです。